〒053-0018　苫小牧市旭町４丁目５番６号
電話 0144-32-6111
岩倉博文・苫小牧市長様

2022年12月22日
護憲ネットワーク北海道
共同代表 吉井健一
吉田勝弘
連絡先 〒060-0012札幌市中央区
北12条西18丁目１番19号
北海道鉄道会館１階
電話011-676-5862

（申し入れ）　米艦船「ラファエル ペラルタ」の苫小牧港への入港を拒否すること

前略　雪が積もりだしました。いつものように市民たちは正月を間近にひかえ、慌ただしく生活にいそしんでいる今日この頃です。

しかし今、２つの大きな不安を抱えていることを忘れてはなりません。ひとつは、新型コロナウイルスのまん延が続いていることです。もし家族の誰かが感染した場合、病院に入院できて治療をしてもらえるのであろうか、という不安です。

もうひとつは、ロシアとウクライナの戦争が長期化し、軍事的戦闘状態がますますエスカレートしているさなかに、米艦船「ラファエル ペラルタ」の入港（23年１月30日～２月６日）が打診されていることです。

苫小牧港の港湾管理者であります市長は、入港をきっぱりと拒否すべき、と強く要請します。その理由を下記に述べます。

貴職からは私たちの意見に対する「見解」を文書で回答されることを求めます。

米艦船の入港を拒否すべき私たちの理由（意見）

（１）米国海軍に所属する「ラファエル ペラルタ」など艦船は、米国の軍事方針にしたがって、今日、インド洋～東中国海～東海（日本海）～オホーツク海にかけて軍事作戦に従事しています。具体的には、ロシアの艦艇などの監視、朝鮮民主主義人民共和国と中国を敵視し、軍事包囲網を構築しています。しかしそのように軍事行動に従事している艦船の入港を認めること事態、米国の軍事作戦に加担することになり、憲法にも違反し、武力行使を排した平和外交方針に反します。

（２）「ラファエル ペラルタ」が核兵器を搭載していないと断言することはできません。北海道などはこれまで、米国と外務省との外交交渉で「核の持ち込み」については事前協議の対象になっており、それが行われていないから「搭載はしていない」とのみ答えてきました。当該の自治体自身が自治の権限でもって艦船に乗り込み、臨検し、直接確認していないのです。

（３）米艦船が苫小牧港に入港した場合、水、飲料水、食料、燃料などを積み込み、また屎尿などの処理もします。これも立派な軍事行動の支援です。

（４）「ラファエル ペラルタ」の乗組員の健康管理を貴職はまったくできません。とりわけ、新型コロナウイルスに感染していないか、事前にチェックできる体制をとっていません。

（５）1997年の空母『インディペンデンス』、2000年の空母『キティホーク』の小樽港入港を画期として、米艦船がほぼ毎年恒例のごとく小樽港に、また函館港、苫小牧港、室蘭港など北海道の民間港に時々入港しています。商業港であるはずの苫小牧港が、千歳空港に近い大型の港ですから「有事」には軍港化すること（常時使用すること）は明らかです。貴職は苫小牧港の軍港化について声を大にして否定しますか。

（６）軍港化への危惧の根拠は、行政当局はこれまで常に、「安保条約がある限り米軍・外務省から要請があれば埠頭が使用できる状況ならば拒否できない」と回答していることにあります。まさに民間港などを何時でも軍事利用できる安保条約の存在が大問題なのです。

貴職は、「安保条約があるから」ではなくて、市民の平和と安全を脅かすこのような安保体制（地位協定）を批判し、その改定をこそ主張すべきなのです。このことは地方自治のあり方からも主張できます。現に、沖縄県知事や沖縄の市長村長は地位協定の抜本的見直しを主張しています。

以上の６点について、貴職の見解を文書でもって回答してください。

以上